

平成27年度資源評価報告書(ダイジェスト版)

[Top](#) > [資源評価](#) > [平成27年度資源評価](#) > [ダイジェスト版](#)

標準和名 ニギス

学名 *Glossanodon semifasciatus*

系群名 太平洋系群

担当水研 中央水産研究所



生物学的特性

寿命： 3歳
成熟開始年齢： 2歳 (100%)
産卵期・産卵場： 土佐湾では主に2～3月で、一部11～12月、水深200～300mの海底付近
索餌期・索餌場： 5～11月、金華山～九州太平洋沿岸の水深100～450mの海域、成長に伴い沿岸からより沖合の生息域に移動
食性： 幼稚魚期は主にカイアシ類、成長に伴いオキアミ類が主体
捕食者： 中・大型の底魚類

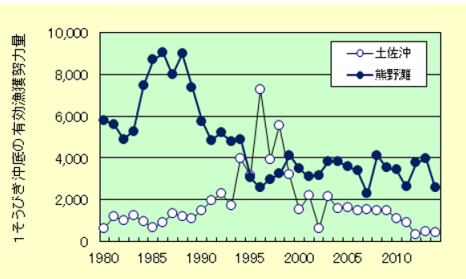
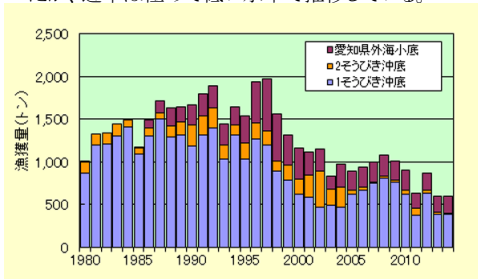


漁業の特徴

主要な漁場は太平洋中部(伊豆沖～熊野灘)・南部(紀州沖～薩南)の水深200～300mの海底付近で、主に1そうびき沖合底びき網(沖底)により漁獲される。金華山～房総沖でも漁獲されるが漁獲データはない。1そうびき沖底の他、2そうびき沖底、愛知県外海小型底びき網(小底)によっても漁獲される。2そうびき沖底による漁獲量はわずかである。

漁獲の動向

漁獲量は1980年代後半から増加し、1997年は1,977トンであったが、その後減少し、2014年は594トンと1980年以降で最低の値となった。2005年以降、1そうびき沖底は漁獲量全体の59～75%を占めている。特に、熊野灘と土佐沖の漁獲量が多く、全体の44～60%を占める。1そうびき沖底の有効漁獲努力量は、熊野灘では1980年代半ばから1990年代半ばまで急減したが、1990年代半ば以降はほぼ横ばいとなっている。土佐沖では1990年代半ばにピークとなったが、近年は極めて低い水準で推移している。

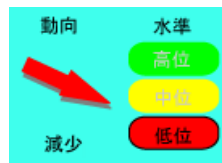
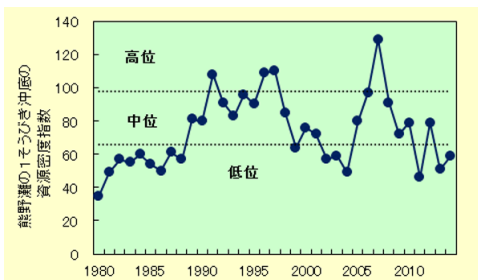


資源評価法

2012年以降、土佐沖の1そうびき沖底の操業隻数が1隻となり、資源密度指数が資源状態を反映していないと考えられることから、熊野灘の1そうびき沖底の資源密度指数を系群全体の資源量指標値として、資源状態を判断した。

資源状態

熊野灘の1そうびき沖底の資源密度指数は、35～129の間を増減しており、2008年以降は減少傾向を示している。2014年は59であった。資源水準は資源密度指数の最大値と最小値の間を三等分して高位・中位・低位とし、低位と判断した。動向は近年5年間(2010～2014年)の資源密度指数の推移から減少と判断した。



管理方策

資源の水準・動向が低位・減少であることから、これ以上の資源水準の低下を防ぐことを管理目標として、算定規則2-1)に基づき、2016年ABCを算出した。

管理基準	Limit/Target	F値	漁獲割合 (%)	2016年ABC (トン)
0.7・Cave3-yr・0.84	Limit	-	-	404

- Limitは、管理基準の下で許容される最大レベルの漁獲量である
- Targetは、資源変動の可能性やデータ誤差に起因する評価の不確実性を考慮し、管理基準の下でより安定的な資源の増大または維持が期待される漁獲量である
- $ABC_{target} = \alpha \cdot ABC_{limit}$ とし、係数 α には標準値0.8を用いた
- 算定規則2-1)により、 $ABC_{limit} = \delta_1 \cdot Cave \cdot \gamma_1$ とした
- δ_1 は資源状態によって決まる係数(水準が低位であることから0.7)、Caveは2012～2014年の系群全体の漁獲量の平均値(687トン)
- γ_1 (0.84) は、 $\gamma_1 = 1 + k(b/I)$ で計算した。ここで、kは標準値の1.0とし、bとは資源量指標値の傾きと直近3年間(2012～2014年)の平均値である

資源評価のまとめ

- 資源水準は低位、動向は減少
- 熊野灘の1そうびき沖底の資源密度指数を資源量指標値とした
- 漁獲努力量の減少も漁獲量減少の要因と考えられる

管理方策のまとめ

- これ以上の資源水準の低下を防ぐことを管理目標とし、算定規則2-1)に基づき2016年ABCを算出した

執筆者: 梨田一也・赤嶺達郎

資源評価は毎年更新されます。